

プロトピック軟膏を 使用される方へ

監修：東京慈恵会医科大学 皮膚科学 教授 中川 秀己 先生

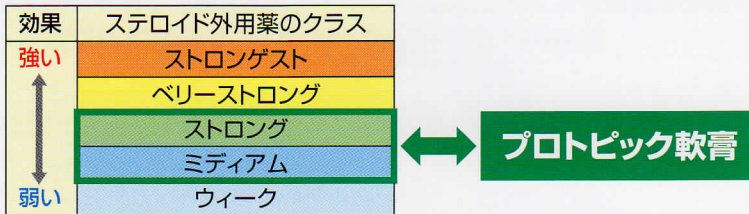


「プロトピック軟膏0.1%」および「プロトピック軟膏0.03%小児用」は、ステロイド外用薬とは異なるタイプのアトピー性皮膚炎治療薬です。日本では、1999年にプロトピック軟膏0.1%が16歳以上に、2003年に0.03%小児用が2歳～15歳までの小児に認可され、2012年現在、世界60カ国以上で発売されています。

 maruho

このお薬の特徴

- プロトピック軟膏は、アトピー性皮膚炎でみられる皮膚の炎症（湿疹）を良くするための塗り薬です。
- 炎症を抑える強さは、ミディアム～ストロングクラスのステロイド外用薬と同程度とされています。

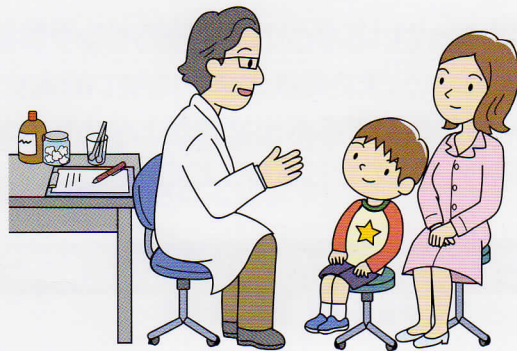
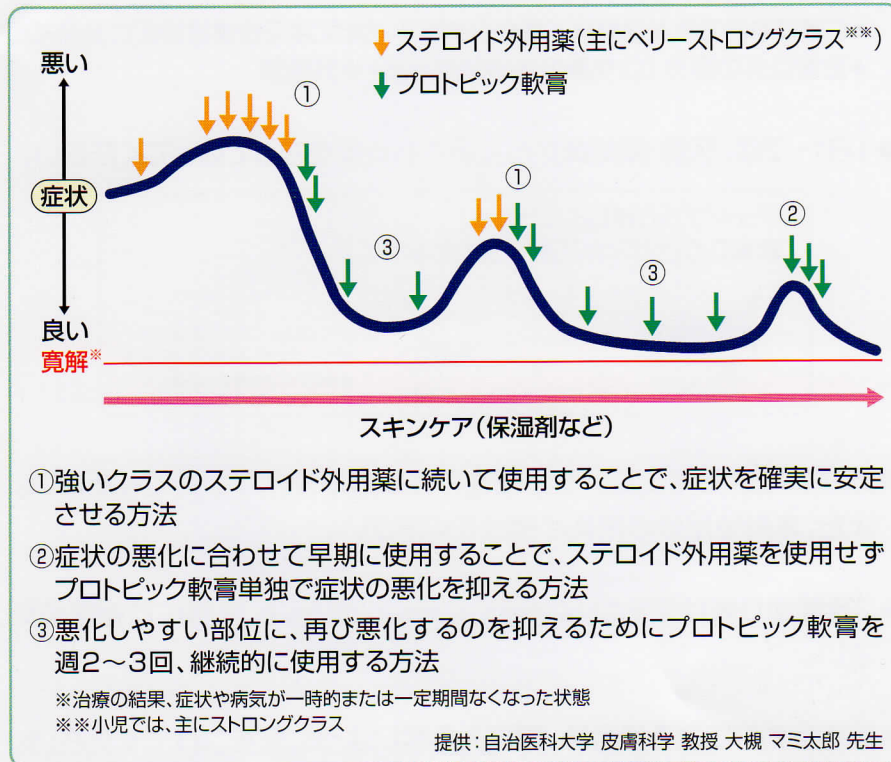


- かゆみに対する効果も期待できます。
- ステロイド外用薬の長期間の使用でみられるような皮膚萎縮^{いしやく}や毛細血管拡張といった副作用はほとんどありません。
- 正常な皮膚からはほとんど吸収されません。
- 塗った直後、一時的に皮膚の刺激感（ほてり、ヒリヒリ感、かゆみ）が出る場合があります。皮膚の症状が良くなるにつれ、通常、1週間くらいでおさまります。なお、刺激感が入浴時に強くなる場合があります。
- マウスの実験では、高い血中濃度が続くとリンパ腫が起こりやすくなることがわかっています。しかし、正しく使用すれば、ヒトで問題となるような血中濃度が続く可能性はありません。
- プロトピック軟膏を使用した患者さんでリンパ腫・皮膚がんが認められたとの報告がありますが、近年、プロトピック軟膏を使用しても一般の人の発症率と変わらないことが報告されています。

このお薬の使い方

ステロイド外用薬では効果が不十分、あるいはステロイド外用薬による副作用が生じる可能性があるなど、このお薬による治療が適切と考えられる場合に使用します。

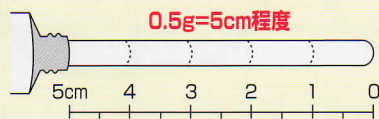
●プロトピック軟膏の使用のタイミング



注意いただきたいこと

- プロトピック軟膏0.1%は16歳以上、プロトピック軟膏0.03%小児用は2歳以上15歳以下に使用してください。
- 次の場所には塗らないでください。
 - 皮膚がジュクジュクしている部分
 - にきびやおできを含む細菌やウイルス、カビによる皮膚感染症の発症部位
 - 皮膚以外の部分（口や鼻の中の粘膜など）や外陰部
- 1日1～2回、医師・薬剤師から指示された量を守って塗ってください。

チューブから押し出したとき、
軟膏0.5gは5cm程度の長さになります。



注)左の図はあくまでも目安です。
チューブを押し出す力などにより、
g単位の長さは変わります。

- 妊婦または妊娠している可能性のある方は使用しないでください。また、本剤使用中の授乳は避けてください。
- 2週間塗り続けても症状が良くならない場合は、医師にご相談ください。
- 目のまわりに塗る場合は、眼に入らないように気をつけてください。
- プロトピック軟膏を塗っている部位には、日焼けランプや紫外線ランプの使用を避けてください。また、塗った部位を強い日光に長時間当てないでください。日常生活での外出は問題ありませんが、山や海に行く前の使用は避け、帰ってから使用してください。

その他にわからないこと、気になることがあれば、医師・薬剤師にご相談ください。